

感染症定期報告に関する今後の対応について

平成16年度第5回
運営委員会確認事項
(平成16年9月17日)

1 基本的な方針

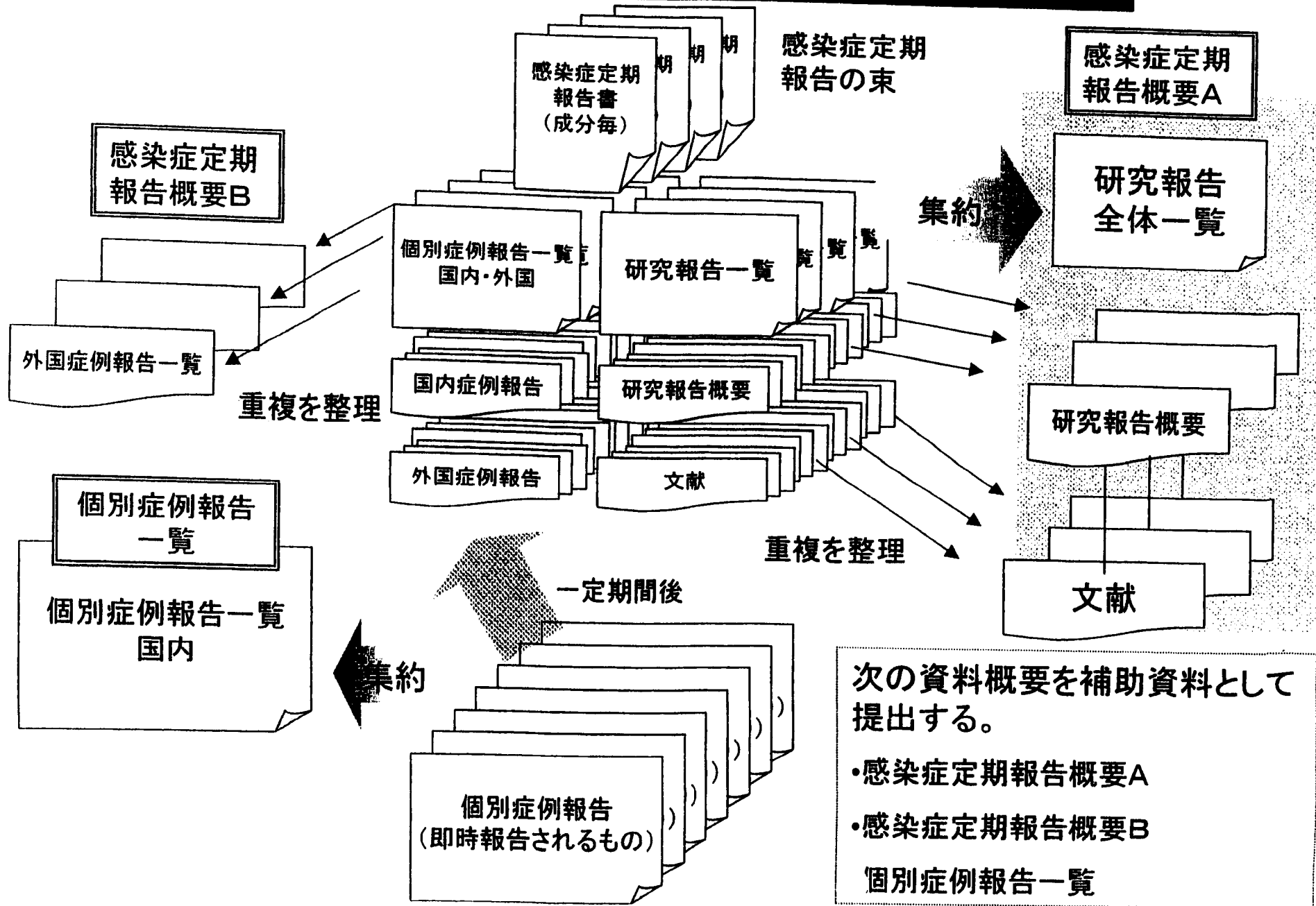
運営委員会に報告する資料においては、

- (1) 文献報告は、同一報告に由来するものの重複を廃した一覧表を作成すること。
- (2) 8月の運営委員会において、国内の輸血及び血漿分画製剤の使用した個別症例の感染症発生報告は、定期的にまとめた「感染症報告事例のまとめ」を運営委員会に提出する取扱いとされた。これにより、感染症定期報告に添付される過去の感染症発生症例報告よりも、直近の「感染症報告事例のまとめ」を主として利用することとすること。

2 具体的な方法

- (1) 感染症定期報告の内容は、原則、すべて運営委員会委員に送付することとするが、次の資料概要を作成し、委員の資料の確認を効率的かつ効果的に行うことができるようにする。
 - ① 研究報告は、同一文献による重複を廃した別紙のような形式の一覧表を作成し、当該一覧表に代表的なものの報告様式（別紙様式第2）及び該当文献を添付した「資料概要A」を事務局が作成し、送付する。
 - ② 感染症発生症例報告のうち、発現国が「外国」の血漿分画製剤の使用による症例は、同一製品毎に報告期間を代表する感染症発生症例一覧（別紙様式第4）をまとめた「資料概要B」を事務局が作成し、送付する。
 - ③ 感染症発生症例報告のうち、発現国が「国内」の輸血による症例及び血漿分画製剤の使用による感染症症例については、「感染症報告事例のまとめ」を提出することから、当該症例に係る「資料概要」は作成しないこととする。ただし、運営委員会委員から特段の議論が必要との指摘がなされたものについては、別途事務局が資料を作成する。
- (2) 発現国が「外国」の感染症発生症例報告については、国内で使用しているロットと関係がないもの、使用時期が相当程度古いもの、因果関係についての詳細情報の入手が困難であるものが多く、必ずしも緊急性が高くないと考えられるものも少なくない。また、国内症例に比べて個別症例を分析・評価することが難しいものが多いため、緊急性があると考えられるものを除き、その安全対策への利用については、引き続き、検討を行う。
- (3) 資料概要A及びBについては、平成16年9月の運営委員会から試験的に作成し、以後「感染症定期報告について（目次）」資料は廃止することとする。

感染症定期報告・感染症個別症例報告の取り扱い



感染症定期報告概要

(平成19年1月17日)

平成18年9月1日受理分以降

- A 研究報告概要
- B 個別症例報告概要

A 研究報告概要

- 一覧表（感染症種類毎）
- 感染症毎の主要研究報告概要
- 研究報告写

研究報告のまとめ方について

1 平成18年9月1日以降に報告された感染症定期報告に含まれる研究報告（論文等）について、重複している分を除いた報告概要一覧表を作成した。

2 一覧表においては、前回の運営委員会での報告したものの以降の研究報告について、一覧表の後に当該感染症の主要研究報告の内容を添付した。

感染症定期報告の報告状況(平成18年9月1日～平成18年11月30日)

血対ID	受理日	感染症 (PT)	出典	概要	
60121	2006/09/29	A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。	
60121	2006/09/29	B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	ヨーロッパでのB型肝炎発生率は北西部が低く(1%以下)、南部が高い(5-15%)。北西部では抗HBcスクリーニングが導入され、南部ではHBV-NATが導入される傾向がある。B型肝炎ウイルス陽性となった供血者と血液の管理に関して、ヨーロッパではHBV DNA、HBc抗体陽性でHBs抗体レベルが100IU/L以上の場合は供血を続けることができるというリエントリー・アルゴリズムが検討されている。	1
60121	2006/09/29	B型肝炎 C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回日本輸血学会総会 2006年6月9-11日	輸血用血液製剤のHBV、HCV、HIVについて、2000年2月から2004年1月までの4年間の遡及調査を行った。調査は、主に複数回献血者において感染症マーカーが陽転した場合に前回の血液サンプルを個別NATで精査するもので、HBVについては50プールNAT、HBsAg、HBcAbのいずれかの陽転例約16000人について前回の保管検体を調べた。副作用報告による感染例を合せると、日本では輸血によるHBV感染が1年に約19例、HCV感染は4年に1例、HIV感染は2年に1例起こるものと推定された。	2
60121	2006/09/29	B型肝炎 C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回日本輸血学会総会 2006年6月9-11日	医療機関において輸血後感染症の全数調査を実施したところ、輸血後陽転例はHBVで9例(0.9%)存在し、1例のみが輸血後B型肝炎と診断され、他の8例は感染晩期のHBVキャリアで再活性化が起こったと考えられた。HCVとHIVでは輸血後陽転例はみられなかった。	3
60121	2006/09/29	B型肝炎 C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回日本輸血学会総会 2006年6月9-11日	日本の献血者におけるHBV NAT陽性者について解析したところ、20歳代ではHBV感染初期、50歳代、60歳代では感染晩期の陽性例が多かった。陽性数の高い地域は千葉県から愛知県までの太平洋側と大阪府であった。HBV Genotype Aは101例(女性1例)検出され、全国に広がる傾向が見られた。	4
60121	2006/09/29	B型肝炎 C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回日本輸血学会総会 2006年6月9-11日	2005年に全国の医療機関から日本赤十字社へ報告された輸血感染症(疑い症例を含む)の現況とその傾向についての報告である。2005年輸血感染症症例(疑い症例を含む)報告数は12月22日現在260例で、内訳は、HBV:127、HCV:71、HEV:2、HIV:2、CMV:3、ヒトパルボウイルスB19:3、細菌:52であった。この内、輸血との因果関係が高いと評価した症例は、HBV:10例、HCV:1例、HEV:1例、ヒトパルボウイルスB19:3例であった。	5
60121	2006/09/29	C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	スペインの肝臓及び消化器専門クリニック数施設における急性C型肝炎の全報告例についてレトロスペクティブ疫学解析を行った。1998年から2005年の急性C型肝炎患者103例を対象とした。大部分の症例で感染に関連する唯一の立証されたリスクファクターは入院であった。	6

感染症定期報告の報告状況(平成18年9月1日～平成18年11月30日)

血対ID	受理日	感染症 (PT)	出典	概要	
60158	2006/10/27	C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 469-475	米国の5つの血液センターで1999年から2001年12月に供血した2,579,290例についてHCV抗体、NATデータ、ALT値および人口統計学的特徴について分析した。ALT値はRNA陽性の初回ドナーで有意に高い傾向があった。ウイルス血症寛解は白人の方がアジア系や黒人より有意に高かった。	7
60121	2006/09/29	E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連する。	
60121	2006/09/29	E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。	
60176	2006/11/22	E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	わが国のE型肝炎の実態を明らかにする目的で、全国から総数254例のE型肝炎ウイルス感染例を集め、これを解析した。その結果、以下の知見を得た。1)HEVは全国に浸透している。2)感染者の多くは中高年(平均年齢約50歳)で、男性に多い。3)我国に土着のHEVの遺伝型は3型と4型である。4)年齢と肝炎重症度に相関がある。5)遺伝型は4型が顕在化率も重症化率も高い。6)発症時期が無季節性である。7)感染経路は、動物由来食感染が約30%、輸入感染が8%、輸血感染が2%、不明が約60%であった。	8
60123	2006/09/27	E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement 1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。また、他のウイルスマーカーの陽性率については、HEV抗体陽性例と陰性例では差は見られなかったが、年齢が高い方がHEV抗体陽性例の割合が高かった。	
60117	2006/09/22	E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	北海道赤十字血液センターで献血者のHEV保有状況を調べた。平成16年11月1日から平成17年10月31日にブタ、シカ等の生肉、生レバーの喫食歴のある献血者は298,790人中802人(0.28%)で、その血液検体からHEV-RNAが1例検出された。平成17年11月1日から12月31日に生肉、レバー等の喫食歴のある献血者は49,361人中13,835人(28.0%)で、HEV-RNAが5例検出された。平成17年1月1日から12月31日の試行的HEV20プールNAT検査での陽性率は約1万分の1であった。	
60123	2006/09/27	E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。	

感染症定期報告の報告状況(平成18年9月1日～平成18年11月30日)

血対ID	受理日	感染症 (PT)	出典	概要	
60174	2006/11/21	HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	日本人初のHIV-2感染者が確定された。男性は過去に西アフリカに渡航し、現地で輸血した経験があるため、これが感染経路と見られている。厚労省は、2型の検査も確実にいき、検査漏れがないよう、各都道府県に通知した。	9
60121	2006/09/29	HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血しょう検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンブロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。	
60121	2006/09/29	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。	
60121	2006/09/29	ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチクングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者をを看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。	
60148	2006/10/25	ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	2005年12月以降、チクングンヤウイルス感染のアウトブレイクがインドの8つの州で続いており、拡大するおそれがある。最も被害の大きい5つの州では896500例以上の疑い例が報告されている。北部の州からは1例も報告されていない。ヨーロッパの多数の国で輸入症例が報告されている。感染の拡大防止ならびに特異的な抗ウイルス薬とワクチンの開発が急務である。	10
60123	2006/09/27	ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。	
60116	2006/09/26	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	海洋起源のVesivirus感染がヒトでどの程度広がっているかを調べた。供血基準をクリアした供血者群、ALT値が高いため供血不可であった供血者群、非A-G肝炎患者群、および輸血または透析に関連した肝炎患者群由来の血清をVesivirusに対する抗体ならびにゲノムについて検査した。Vesivirusビリオンに対する血清陽性は、各々、12%、21%、29%、47%であった。RT-PCRの結果、SMSV Vesivirusなどとの関連性が示された。感染がヒトに広くみられることが明らかになった。	

感染症定期報告の報告状況(平成18年9月1日～平成18年11月30日)

血対ID	受理日	感染症 (PT)	出典	概要	
60121	2006/09/29	ウイルス 感染	ProMED2006 0205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。	
60123	2006/09/27	ウイルス 感染	ProMed20060 225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。	
60158	2006/10/27	ウイルス 感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	全血輸血により、サルfoamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。自然感染ザル2匹の全血を、各々、レトロウイルスを持たないサル2匹に輸血したところ、1匹のドナーからのレシピエントでは感染し、もう1匹のドナーからのレシピエントは感染しなかった。ヒトでのSFV輸血伝播の可能性が示された。	11
60110	2006/09/19	ウイルス 感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006 年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。	
60110	2006/09/19	ウイルス 感染	第80回 日本 感染症学会 総会・学術講 演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。	
60121	2006/09/29	コロナウイ ルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。	
60117	2006/09/22	伝染性紅 斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。	
60116	2006/09/26	パルボウイ ルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。	
60158	2006/10/27	パルボウイ ルス	J Clin Virol 2006; 35: 407-413	血液プール中の感染性パルボウイルスB19を自動的に高速に検出するための方法を開発した。B19蛋白合成は免疫蛍光染色で検出され、ウイルスDNA合成はdot blot hybridizationと定量的PCRで検出された。調べられた細胞株の中ではUT7/Epo-S1がB19感染に最も感受性が高かった。	12

感染症定期報告の報告状況(平成18年9月1日～平成18年11月30日)

血対ID	受理日	感染症 (PT)	出典	概要	
60121	2006/09/29	バルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	ヒトバルボウイルスB19DNA(1.6x10 ⁸ IU/mL)を含むプール血漿の輸血後、B19 IgG陽性の患者では抗体価が19-39 IU/mLから50-100 IU/mLに上昇して再感染を防いだ。それに対し、陰性の患者では、1.6-2.2 x 10 ⁸ IU/mLのB19DNAの存在下で、プール血漿のIgGレベルが59.5 IU/mLではB19の伝播とセロコンバージョンを防ぐのは不十分であることがわかった。	13
60123	2006/09/27	バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のバルボウイルスB19遺伝子型2による汚染は報告されていないので、市販されている21製剤の202ロットを、バルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。	14
60174	2006/11/21	マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。	15
60122	2006/09/29	マラリア	CDC 2006年6 月30日	米国疾病対策予防センターは、バハマのグレートエグズーマ島におけるマラリア発生を確認し、旅行者に対して抗マラリア薬の使用を勧告した。2006年6月29日現在、患者数は合計18例で、うち4例が旅行者である。全員Plasmodium falciparumに感染していた。	16
60122	2006/09/29	マラリア	ProMED- mail20060624 .1758	キルギスタンの首都で79例のマラリア症例が登録された。予防手段を講じているにもかかわらず、流行が拡大中である。住民に問題を理解させるのが難しく、衛生疫学監視センターの職員は時々しか殺虫剤を散布できない。	17
60121	2006/09/29	ムンプス	AABB Association Bulletin #06- 04 2006年4 月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。	18
60121	2006/09/29	リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	2003年12月及び2005年4月に固形臓器の移植を受けた2つの患者群の感染症について調べた。レシピエント全員(8名)の検体からリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)が検出されたが、ドナー(2名)からは検出されなかった。2005年群のドナーはLCMVに感染したハムスターをペットとして飼っていたが、2003年群の感染源は不明であった。レシピエント8例中7例は移植後9日から76日で死亡した。	19
60148	2006/10/25	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	AABB Weekly Report 2006 年7月21日	アイルランド輸血サービスは、CJDの病因となるプリオンを供血血液から除去するために開発された新しい装置を1年間使用した後、試用の中止を決定した。血液サービスは昨年、そのフィルター装置を購入したが、十分な効果が得られず、CJDプリオンは捕捉されずに通過し、供血中に混入する可能性があるためである。	20

感染症定期報告の報告状況(平成18年9月1日～平成18年11月30日)

血対ID	受理日	感染症 (PT)	出典	概要	
60121	2006/09/29	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Blood 2006; 107: 3907- 3911	PrPCは全身の多数の組織に存在し、血小板に大量に存在する。静止血小板ではα顆粒膜上に存在することが知られているが、その生理学的機能は不明である。血小板中のPrPCの局在を調べたところ、血小板が活性化すると、血小板表面上にPrPCが一時的に発現し、続いて、微小胞およびエキソソーム上への放出が起こることが明らかとなった。血小板由来エキソソーム上にPrPCが存在するという事は、血中でのPrPC輸送および細胞間伝播におけるメカニズムを示唆する。	21
60121	2006/09/29	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	BMJ 2006; 332: 1186- 1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。	22
60123	2006/09/27	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	BMJ Online doi:10.1136/b mj.38804.511 644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。	
60117	2006/09/22	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。	
60176	2006/11/22	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Future Virol 2006; 1: 659- 674	血液製剤の製造工程におけるプリオンの除去に関する総説である。プリオン除去のための個々の製造工程は、実際の製造条件を実験室での条件にスケールダウンさせ、確立されているスクレイパー株をモデル系として用いて通常は評価されている。しかしながら、血液中のプリオンタンパクの存在形態が不明なので、評価実験のためのスパイク材料としてのプリオンの調製方法は注意深く考慮しなければならない。現在のところ、エタノール分画、PEG分画、カラムクロマトグラフィー、ウイルス除去膜およびデプスフィルターでの濾過が有効とされている。	23
60134	2006/10/18	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) U.S. Department of Health and Human Services Food and Drug Admini-stration Center for Biologics Evaluation and Research August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。	24

感染症定期報告の報告状況(平成18年9月1日～平成18年11月30日)

血対ID	受理日	感染症 (PT)	出典	概要	
60158	2006/10/27	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 16-20	vCJDが英国の血友病患者の臨床に与えた影響について述べた。 2003年に輸血伝播vCJDによる最初の死亡例が報告され、2004年に 輸血伝播vCJDのリスクがある全ての患者に通知することが決定され た。2005年4月現在、A型およびB型血友病患者は全員、遺伝子組換 え凝固因子を投与されている。	25
60158	2006/10/27	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 26-28	血友病の管理における新興病原体についての討論。英国ではvCJD が特に大きな脅威であるが、白血球除去により完全に伝播を防ぐこと はできない。また遺伝子組換え製剤による治療が、全てのウイルス伝 播リスクをなくすわけではないことなどが論じられている。	26
60158	2006/10/27	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 8-15	vCJDは食物でBSEに暴露することで発生するとされていたが、輸血や 血液製剤によっても伝播することが報告された。今までのヒトでの発症 例は全てヒトプリオン遺伝子のコドン129がメチオニンホモ型のヒトであ り、感染していても発症しない無症候性キャリアがいるおそれがある。 非侵襲性の血液検査の開発が急務である。	27
60126	2006/09/27	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	J Neuroi Neurosurg Psychiatry 2006; 000: 1- 3	1970年～2003年にヒト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。 手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45～177ヶ月)であった。さら に、世界で初めて、ブタ硬膜片レシーピエントでCJD1例を確認した。こ れらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。	28
60123	2006/09/27	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068- 2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認した が、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に 食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最 小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年 から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。 プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期 間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129 がヘテロ接合体であることが明らかとなった。	29
60121	2006/09/29	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告 された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に 発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP 遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波よ り、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりv CJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。	
60123	2006/09/27	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型 (MM、MV、VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJD を接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、 BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照 的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝子型で病理 学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特 徴および臨床症状が早く発現した。、VVは感染効率が最も低く、発現 までの期間が長かった。	

感染症定期報告の報告状況(平成18年9月1日～平成18年11月30日)

血対ID	受理日	感染症 (PT)	出典	概要	
60123	2006/09/27	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrPSc)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPScが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPScは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。	
60123	2006/09/27	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreise s Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。	
60121	2006/09/29	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360～490日後に、脳抽出物を接種した群は230～280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPScが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。	
60121	2006/09/29	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイビーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。	30
60121	2006/09/29	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Sunday Herald 2006 年3月5日 http://www.sundayherald.com/54442	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイビーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。	
60121	2006/09/29	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	The Guardian 2006年5月2 日	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14カ国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。	31

感染症定期報告の報告状況(平成18年9月1日～平成18年11月30日)

血対ID	受理日	感染症 (PT)	出典	概要	
60117	2006/09/22	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	The Guardian 2006年5月2 日 http://www.g uardian.co.uk /frontpage/st ory/0,,176553 1,00.html	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14カ国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。	
60158	2006/10/27	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	Transfusion 2006; 46: 652-658	血漿分画時にTSE物質を除去する研究のために、スクレイパーに感染した脳から水溶性の感染性検体を調整した。263Kスクレイパー感染ハムスターの脳を10%PBS中に懸濁し、低速遠心分離後、更に上澄みを超遠心(220000xg)した。得られた上澄みは感染性を有し、しかもPrPTSEの凝集体を全くまたはごくわずかしき含有しなかった。	32
60123	2006/09/27	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9 日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。	
60121	2006/09/29	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	英国保健省 Press Statement http://www.h pa.org.uk/hpa /news/article s/press_relea ses/2006/06 0209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。	
60174	2006/11/21	変異型ク ロイツフェ ルト・ヤコ ブ病	厚生労働省 平成18年8月 24日	平成18年8月23日に開催された薬事・食品衛生審議会血液事業部会安全技術調査会において、ヒト胎盤エキス(プラセンタ)注射剤使用者に対する献血制限措置を日本赤十字社が実施することが了承された。	33
60158	2006/10/27	ウイルス 感染	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 3-7	1992年以来、米国の医学研究所(IOM)は、「新興感染症は、新型の、または再興する、または薬剤耐性の感染症であり、ヒトでの発生率が過去20年で増加しているか、近い将来増加するおそれがある疾患」と定義している。現在、トリインフルエンザ、ウエストナイルウイルス、重症急性呼吸器症候群(SARS)コロナウイルスの3つが注目されている。供血中の感染物質の存在は、血友病患者の治療に使われる血液や血液由来製品の安全性に重大な影響を与える。病原体の検出と除去が重要である。	34
60110	2006/09/19	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。	

感染症定期報告の報告状況(平成18年9月1日～平成18年11月30日)

血対ID	受理日	感染症 (PT)	出典	概要	
60173	2006/11/15	結核	WHO 2006年 9月5日	WHOは病原性が強く、致死性の結核の世界的な拡大防止の強化および措置を求めた。6クラスの第2選択薬の3クラス以上に耐性のある多剤耐性結核(XDR-TB)は世界の様々な地域で確認されており、特に旧ソビエト連邦やアジアで多い。また南アフリカではXDR-TBでHIV陽性である患者群で極めて高い死亡率が確認されている。	35
60122	2006/09/29	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血歴の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。パルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。	
60122	2006/09/29	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	オランダで2002年11月に全国統一の皮膚消毒法(70%イソプロピルアルコールを用いたダブルスワブ消毒)が導入された。2002年から2003年に、プールされた軟層由来の濃縮血小板113,093例をスクリーニングしたところ、新消毒法導入後の初回陽性は0.85%で、導入前の0.95%と比べ、わずかな減少であった。初流血除去バッグを使用していた施設では細菌汚染の頻度は有意に低く、新消毒法導入前は0.5%、導入後は0.37%であった。アフレーシス濃縮血小板は8000例中24例(0.3%)が初回陽性であった。	
60143	2006/10/18	鳥インフルエンザ	Arch Virol 2006 Published online Feb 26, 2006	2004年初頭、日本で発生した高病原性トリインフルエンザで死亡したニワトリから単離されたA/chicken/Yamaguchi/7/04(H5N1)ウイルスを、ニワトリ、ウズラ、セキセイインコ、コガモ、マウス、ミニブタに経鼻で接種し、実験的に感染させることにより病原性を評価した。このウイルスは調べられた全てのトリで高病原性を示し、ニワトリは接種後4日以内に6例全て死亡し、ウイルスは呼吸器、肝臓、腎臓、大腸、脳から検出されたが、血液からは検出されなかった。マウスは感染に感受性はあるが、致死率は低かった。	36
60158	2006/10/27	鳥インフルエンザ	ECDC Technical Report 2006 年6月1日	ヨーロッパで発生している高病原性トリインフルエンザウイルス、特にA型H5N1による公衆衛生的リスクについて論じている。ヒトの健康へのリスクとしては、トリウイルスによる直接感染、ならびに新しいA型インフルエンザ株の発生がある。感染予防のためには家禽および野鳥の調査、獣医と医療との連携、適切な情報の提供などが必要である。	37
60111	2006/09/29	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。	
60121	2006/09/29	鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。	